

シンポジウム ①「火・水・風のエコロジー」

日時 2001年4月1日(日) 10:00~17:00

場所 天理市文化センター

第1部 こども・エコ討論会 (10:00~12:00)

21世紀を担う小中学生による「こども・エコ討論会」。この討論会では、天理市内で環境調査を続ける「こども・エコクラブ」の活動員9名が、パネリストとして相互に討論し合い、アドバイザーから助言をもらいながら議論を深めた。

テーマ： 21世紀の天理は、こんなまちにしたい ～ふるさとの自然をみつめて～

パネリスト：天理市内の小中学生9名

アドバイザー：金澤 運氏 (天理市教育委員会教育長)

堀川淳司氏 (天理市立柳本小学校教諭)

久保田有氏 (奈良自然観察会代表)

林 庄三氏 (環境市民ネットワーク天理監査)

コーディネーター：佐藤孝則 (環境市民ネットワーク天理代表)



討論会の参加者と司会者(左端)。

第2部 実演「竹の音楽」(13:00~13:45)

日本の伝統文化の一つとして受け継がれ、親しまれている雅楽の演奏や舞のほか、竹笛の美しい音色を紹介。雅楽で使われる「笙(しょう)」や「箏(ひちりき)」の楽器は、「竹」を素材として作られている。今日、里山を荒廃させる“悪玉”として嫌われる竹が、古来、伝統文化として活用されていたことを紹介。



天理大学雅楽部による雅楽演奏(左)と、竹笛を演奏する天理教音楽研究会の小林郁二氏(右)。

第3部 メインシンポジウム (14:00~17:00)

基調講演を内村悦三氏に「竹と環境-竹が21世紀を救う-」と題して発表していただき、長島孝一氏と渡辺豊和氏からは「エコ社会」「エコハウス」の考え方を、さらに渡邊晶氏からは日本の伝統的な「木の文化」を紹介していただいた。また実践例として、濱恵介氏からは「エコハウス」づくりを、久保田徳満氏からは自治体として試みた大規模な風力発電について紹介していただいた。パネル討論では、「火・水・風」の自然エネルギーを活かした社会づくりについて論議を深め、21世紀の「エコ社会」のあり方を考えた。

テーマ：「火・水・風のエコロジー」

基調講演 「竹と環境 -竹が21世紀を救う-」

内村悦三氏 (竹資源活用フォーラム代表)

パネリスト 渡辺豊和氏 (京都造形芸術大学教授)

久保田徳満氏 (北海道苫前町長)

濱 恵介氏 (大阪ガス(株)エネルギー文化研究所研究主幹)

渡邊 晶氏 ((財)竹中大工道具館学芸課長)

長島孝一氏 (NPO 法人ゼリ鎌倉理事)

コーディネーター：井上昭夫氏 (天理大学おやさと研究所長)



前列は基調講演者とパネリスト、後列はコーディネーターと関係者。